

2023 年度 小委員会活動成果報告

(2024 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	構造形態創生小委員会	主 査 名：横須賀 洋平 就任年月：2023 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (シェル・空間構造運営委員会)	委員長名：五十田 博 (主 査 名：山下哲郎)
設 置 期 間	2023 年 4 月 ～ 2027 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>シェル・空間構造における構造形態創生に関する調査・分析・整理及び普及活動とこれらに関するコロキウム等の開催活動を継続的に実施する。また、関連する領域の研究や技術開発に関する情報を世界から収集し、WEB やコロキウム資料集に掲載する。これらの活動を通して、実務者や研究者間の情報交換を図り、社会に対してシェル・空間構造の形態創生に関する最新情報の提供を行う。また、必要に応じて形態創生に関する研究者や技術者を招待しての研究会の開催や、形態創生の入門書の出版企画の可能性の検討などを行う。</p> <p>初年度：「第 18 回 コロキウム構造形態の解析と創生 2023」の企画及び開催 具体的な内容として、一般講演（研究、技術報告）、特別講演、招待講演、形態創生コンテストの実施、形態関連情報の報告を行う。形態創生に関する研究会などを通して、最新の形態創生法の調査・分析・整理を行う。</p> <p>2 年度：「第 19 回 コロキウム構造形態の解析と創生 2024」の企画及び開催 形態創生に関する研究会などを通して、形態創生法の調査・分析・整理を行う。形態創生の入門書の出版企画についても検討する。</p> <p>3 年度：「第 20 回 コロキウム構造形態の解析と創生 2025」の企画及び開催、コロキウム 20 回記念イベントの企画立案と運営 形態創生に関する研究会などを通して、形態創生法の調査・分析・整理を行う。形態創生の入門書の執筆作業を行う。</p> <p>4 年度：「第 21 回 コロキウム構造形態の解析と創生 2026」の企画及び開催 形態創生法の調査・分析・整理による成果を報告書或いは書籍として刊行し、大会 PD、シンポジウム、ホームページにおいて公表する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：</p> <p>主査：横須賀 洋平 (鹿児島大学) 幹事：永井 拓生 (滋賀県立大学)、藤田 慎之輔 (北九州市立大学) 委員：ガン プンタラ (日本大学)、木村 俊明 (名古屋市立大学)、熊谷 知彦 (明治大学)、館 知宏 (東京大学)、陳 沛山 (九州工業大学)、永田 洸大 (大建設)、野村 圭介 (東海大学)、浜田 英明 (法政大学)、松尾 智恵 (明星大学)、三木 優彰 (東京大学)、山本 憲司 (東海大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2023 年度予算	65,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s49/index.htm

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物	なし
講習会	なし
催し物	1. 第 18 回 コロキウム構造形態の解析と創生 2023 『同名資料集』 参加者数 98 名
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. コロキウムの継続開催により、シェル・空間構造に関する形態創生法の研究者や実務者あるいは学生・若手技術者への普及を図り、その成果をコロキウム資料集としてまとめた。今年度は、建築情報学会に後援を依頼し、広報活動の援助を得るとともに、学会外の組織と連携する活動を開始した。コロキウム資料集は、一般講演や特別講演の講演論文のみならず、形態創生コンテスト応募作品の掲載、形態関連技術の報告、形態創生関連イベントの報告を行った。コロナ禍で低迷した参加者数を増加する事が出来た。</p> <p>2. 形態創生関連の最新情報および成果は、学会ホームページに掲載した。コロキウム構造形態創生の Twitter アカウントを作成し、SNS による交流活動を開始した。</p>
委員会活動の問題点・課題	なし